

2026年3月期 第2四半期決算 IR説明会資料

2025年11月

株式会社 極 洋

(東証プライム市場 証券コード 1301)

1.上半期 総括	P2～6
2.上半期 実績	P7～12
3.セグメントの状況	P13～19
4.下半期の施策	P20～23
5.設備投資実績・計画	P24～26
6.配当の推移	P27～28
ご参考資料	P29～35

1.上半期 総括

売上高
1,559億円

前期比 154億円増
(+11.0%)

営業利益
45億円

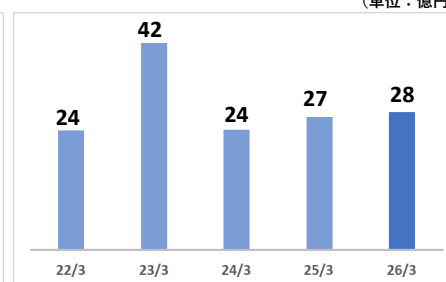
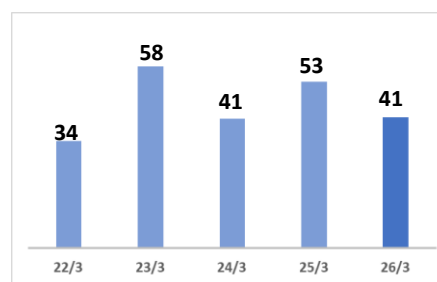
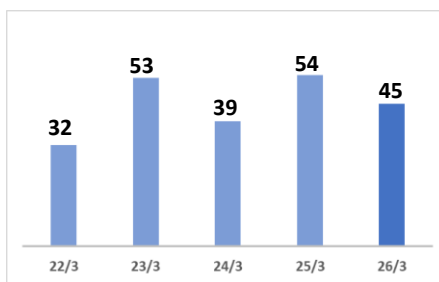
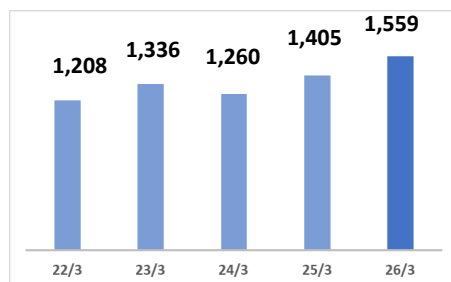
前期比 9億円減
(△16.6%)

経常利益
41億円

前期比 11億円減
(△21.5%)

親会社株主に帰属する
中間純利益
28億円

前期比 1億円増
(+3.9%)



(単位：億円)

ポイント

- 売上高は2期連続で過去最高値を更新も、営業・経常利益は減益
- 減益の主要因：生鮮事業セグメントの海外まき網事業（子会社のカツオ漁獲事業）の漁獲低迷
水産事業セグメントにおける 海外事業拡大に係る先行費用の発生等

下半期の方針：利益向上を目的とした売上高の拡大

- 水産物の最需要期である年末商戦で、高額商品を中心に拡販し、市況を意識した在庫管理の徹底で、利益確保

視座

グローバル化

事業基盤の拡充

海外事業の拡大

中期経営計画目標

2027年3月期 海外売上高比率 15%以上（600億円）

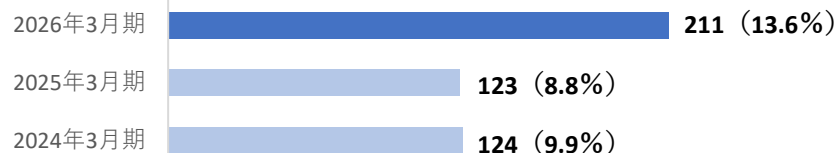
（ご参考）

26年3月期 上半期実績 13.6%（211億円）

25年3月期 上半期実績 8.8%（123億円） 25年3月期 通期実績 10.8%（325億円）

海外売上高（海外売上高比率）

単位：億円



Engelsviken Canning Denmark A/S



北欧のスーパーで販売されている ECD 社のエビ製品と缶詰

- 水産加工品の北欧販売網を有するデンマーク企業「Engelsviken Canning Denmark A/S」に出資【25年9月】

オランダの子会社を中心に拡張してきた西欧、南欧向け販売に加えて、北欧販売事業を強化

* 2 Q 決算は連結対象外

- 輸出事業の組織改編

従来、海外事業部が担っていた輸出版売業務を各商材の国内販売担当各部署へ移管【25年10月】

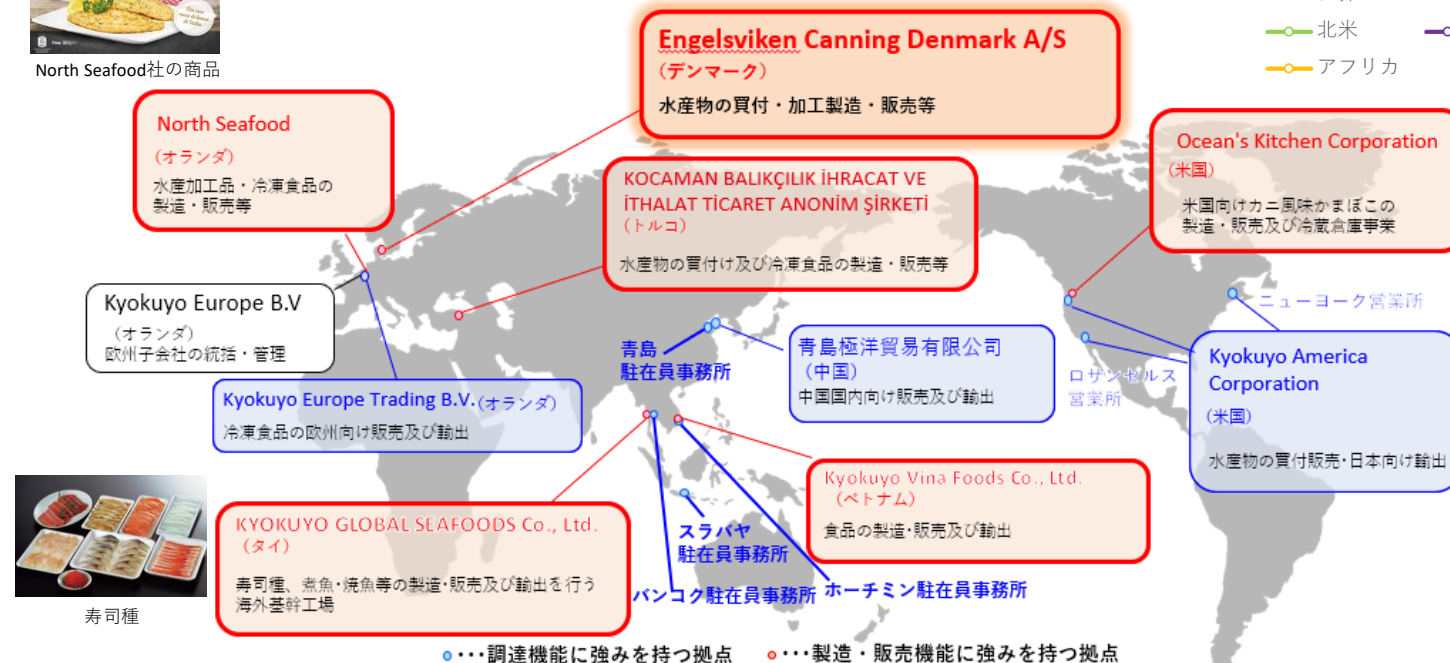
国内・海外向けの買付・在庫管理を一本化することで、調達力及び供給力の強化を図る。

➤ 海外拠点の拡大

世界では、健康志向の高まりなどにより魚介類の消費量は拡大傾向。
1937年の創立以来、魚の調達・加工を展開してきた「魚の極洋」の
アドバンテージをグローバルに発揮していく。



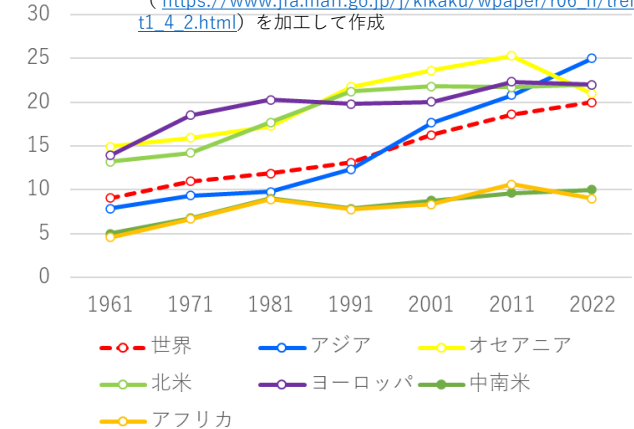
North Seafood社の商品



世界の1人1年当たり食用魚介類の消費量の推移
(粗食料ベース)

出典：水産庁「令和6年度 水産の動向」

※「世界の1人1年当たり食用魚介類の消費量の推移」(水産庁)
(https://www.jfa.maff.go.jp/j/kikaku/wpaper/r06_h/trend/t1_4_2.html) を加工して作成



カニ風味かまぼこ

視座 4つの事業

事業基盤の拡充

高収益を確保できる付加価値性の高い商品づくり

➤ 2025年秋の新商品発表【25年7月】

「魚でととのう豊かな毎日。」をテーマに、
魚介類のおいしさと栄養が手軽に摂れる商品を開発。



ステークホルダーとのパートナーシップの強化

消費者との信頼関係構築

目的：企業ブランドの強化

➤ You Tube等のWEB、テレビ（エリア限定）でCM放映【25年9月】

- オリジナルキャラクター「だんどり～にゃ」を起用した新企業CMの 放映開始【25年10月】
26年10月に新商品CM放映開始（予定）



視座 人財・組織

ステークホルダーとのパートナーシップの強化

従業員が働きやすい職場環境

➤ 組合員平均月額19,700円アップ、初任給は30万円に引き上げ【25年4月】

昨今の物価上昇への対応を含め、モチベーション向上と人材確保につなげる狙い。

2.上半期 実績

連結損益計算書

(単位：百万円)

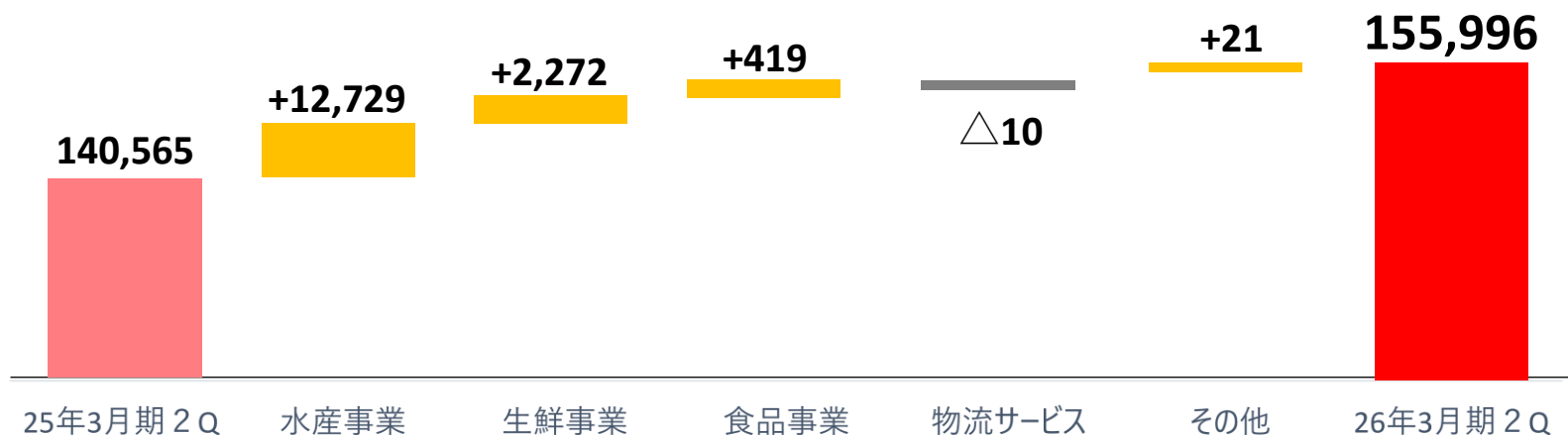
	2Q		前年同期比		2026年 3月期 通期予想	通期 予想比 (達成率)
	2025年 3月期	2026年 3月期	増減額	増減比率		
売上高	140,565	155,996	15,431	11.0%	350,000	44.6%
営業利益	5,464	4,555	△909	△16.6%	12,500	36.4%
経常利益	5,315	4,172	△1,143	△21.5%	12,500	33.4%
親会社株主に帰属 する中間純利益	2,709	2,814	105	3.9%	8,200	34.3%

➤ 前年同期比

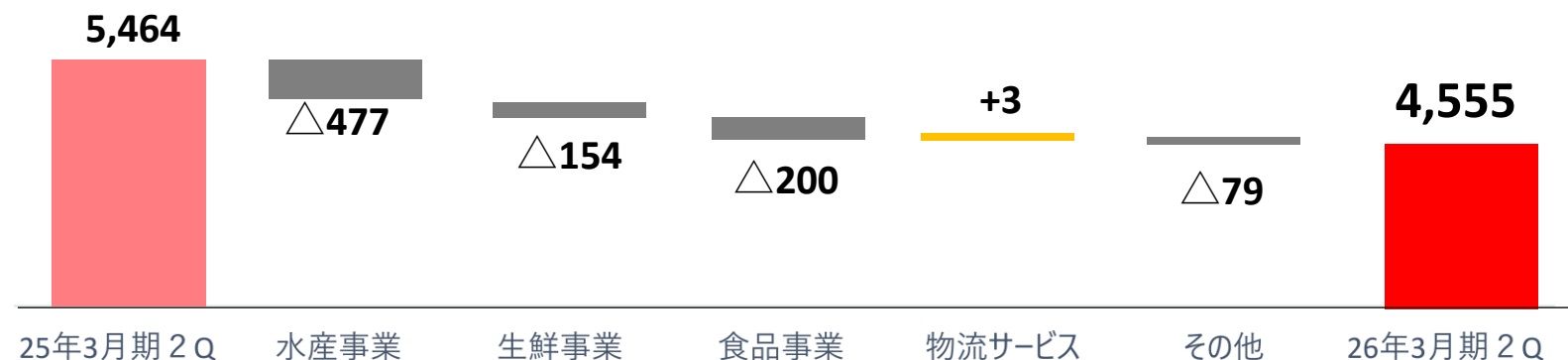
- ・売上高は、輸出・三国間貿易を含む水産物販売の伸長、昨年買収した海外子会社の取り込み、鰹鮪・寿司種の販売増により増収
- ・減益の主要因は、子会社の海外まき網事業（自社船によるカツオ漁獲）の漁獲低迷、稼働開始した海外新設工場の費用先行、買収した子会社の原料不足による工場稼働率低迷
- ・中間純利益は微増（前年同期は特別損失「訴訟関連損失」934百万円が発生）

売上高・営業利益のセグメント別増減分析

売上高



営業利益



連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2024年 9月末	2025年 9月末	前年同期比		2024年 9月末	2025年 9月末	前年同期比
資産の部				負債の部			
流動資産	131,759	147,401	15,642	流動負債	79,528	90,160	10,632
受取手形 及び売掛金	36,412	42,592	6,180	内、支払手形 および買掛金	12,304	12,754	449
				内、短期借入金 (含むCP)	50,687	59,738	9,050
商品及び製品	62,370	67,133	4,762	固定負債	32,512	37,874	5,362
仕掛品	5,445	5,532	87	内、長期借入金	30,275	32,964	2,689
原材料及び貯蔵品	10,135	12,980	2,844	負債合計	112,040	128,035	15,994
その他	17,395	19,162	1,767	純資産の部			
固定資産	42,013	52,625	10,612	株主資本	53,871	59,162	5,290
有形固定資産	25,342	27,866	2,523	その他の 包括利益累計額	7,468	11,241	3,772
無形固定資産	1,230	1,683	452	非支配株主持分	391	1,588	1,197
投資その他の資産	15,439	23,075	7,636	純資産合計	61,731	71,992	10,260
資産合計	173,772	200,027	26,254	負債及び純資産合計	173,772	200,027	26,254

- ・売上高の増加により「受取手形及び売掛金」、「商品及び製品」が増加。
- ・一部水産物の相場上昇に伴う運転資金の増加などにより「短期借入金」が増加。

連結キャッシュフロー計算書

(単位：百万円)

		2Q累計	2Q累計	
		2025年3月期	2026年3月期	前年同期比
営業活動による キャッシュ・フロー	税金等調整前中間純利益	4,118	4,197	79
	減価償却費	1,216	1,434	218
	売上債権の増減 (△は増加)	△349	△6,054	△5,705
	棚卸資産の増減 (△は増加)	△5,930	△10,813	△4,883
	仕入債務の増減 (△は減少)	2,975	3,141	166
	その他	71	△545	△616
小計		2,101	△8,639	△10,740
投資活動による キャッシュ・フロー	固定資産の取得	△2,461	△2,156	304
	その他	△2,745	△896	1,848
	小計	△5,206	△3,053	2,153
財務活動による キャッシュ・フロー	短期借入金 (含むCP)の増減 (△は減少)	△66	16,019	16,085
	長期借入れの増減 (△は減少)	4,671	△2,123	△6,794
	その他	△1,231	△1,663	△432
	小計	3,374	12,232	8,858

- ・「売上債権」「棚卸資産」の増加が、営業CFを押し下げた。
市況上昇局面にあった水産物の高額商材について、戦略的在庫保持に動いたことなどが影響。
- ・「棚卸資産」の増加で短期借入金が増加。

2Q累計の推移

	2022年 3月期	2023年 3月期	2024年 3月期	2025年 3月期	2026年 3月期	前年同期比
自己資本（百万円）	42,070	46,027	50,219	61,340	70,404	9,063
有利子負債（百万円）	56,798	75,748	74,435	82,609	94,029	11,419
総資産（百万円）	127,429	150,833	155,112	173,772	200,027	26,254
現金及び現金同等物の 中間期末残高（百万円）	6,790	5,880	7,681	8,917	8,071	△845
自己資本比率	33.0%	30.5%	32.4%	35.3%	35.2%	△0.1ポイント
D/Eレシオ	1.5倍	1.8倍	1.6倍	1.5倍	1.6倍	+0.1ポイント
ROE	5.9%	9.5%	5.0%	4.5%	4.1%	△0.4ポイント
ROA	2.8%	4.1%	2.7%	3.2%	2.2%	△1.0ポイント

ROE：「親会社株主に帰属する中間純利益÷自己資本*」、ROA：「経常利益÷総資産*」 *当中間期末と前期末の平均値

- ・自己資本は増加したものの、総資産が大きく増加したことにより、自己資本比率は微減
- ・経常利益の減益および総資産の増加により ROA は減少

3.セグメントの状況

セグメントの状況

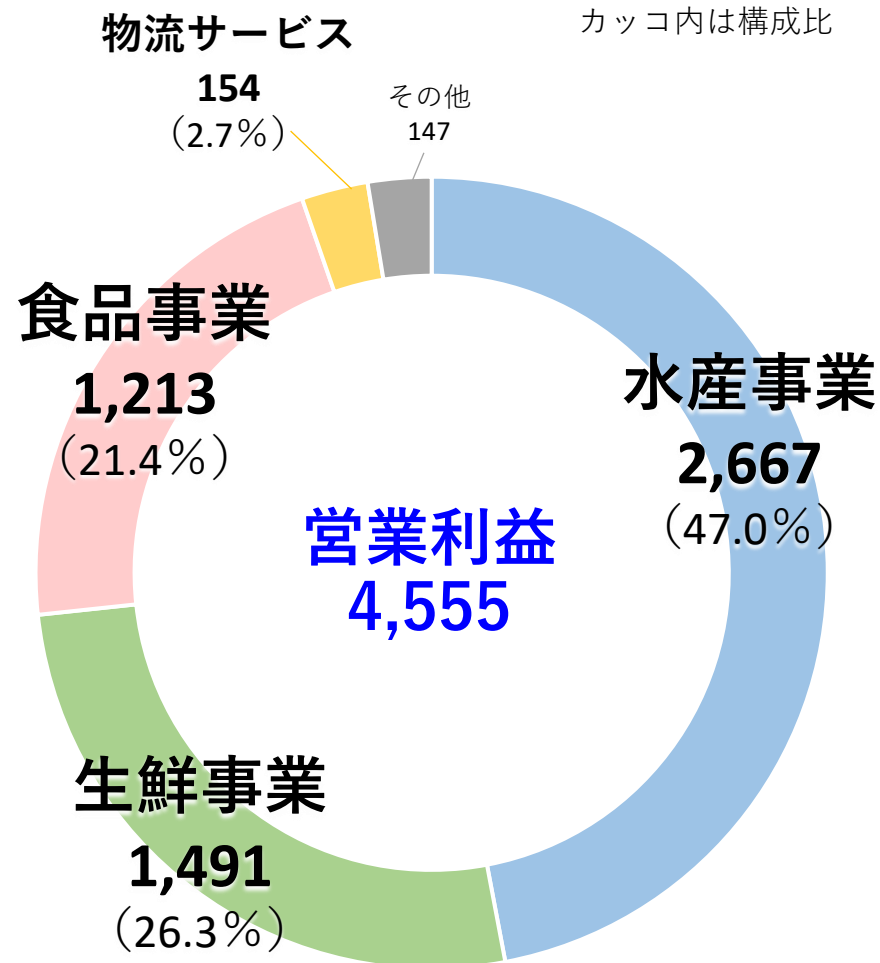
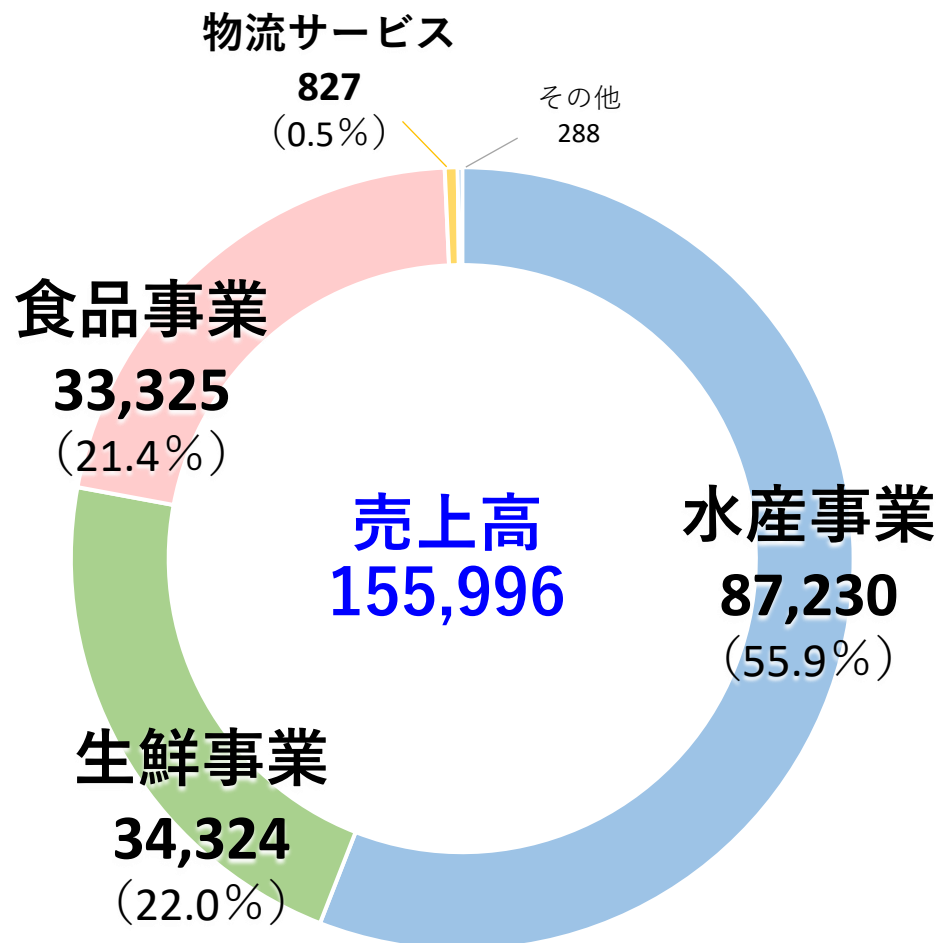
セグメント別売上高・利益

(単位：百万円)

	売上高			セグメント利益		
	2025年3月期 2Q	2026年3月期 2Q	前年同期比	2025年3月期 2Q	2026年3月期 2Q	前年同期比
水産事業	74,501	87,230	12,729	3,144	2,667	△477
生鮮事業	32,051	34,324	2,272	1,645	1,491	△154
食品事業	32,906	33,325	419	1,413	1,213	△200
物流 サービス	838	827	△10	151	154	3
その他	267	288	21	△891	△971	△79
合 計	140,565	155,996	15,431	5,464	4,555	△909

セグメントの状況

単位：百万円
カッコ内は構成比



※調整額 △1,118百万円を除く。
調整額を差し引く前のセグメント利益合計は5,673百万円。

水産事業

《増収減益》

- ・サバ：世界的需要高で、三国間貿易、輸出とも伸長
- ・ホタテ：市況高騰→国内販売量減少も、単価上昇で売上伸長
輸出は需要旺盛で、数量・売上好調

（国内販売）

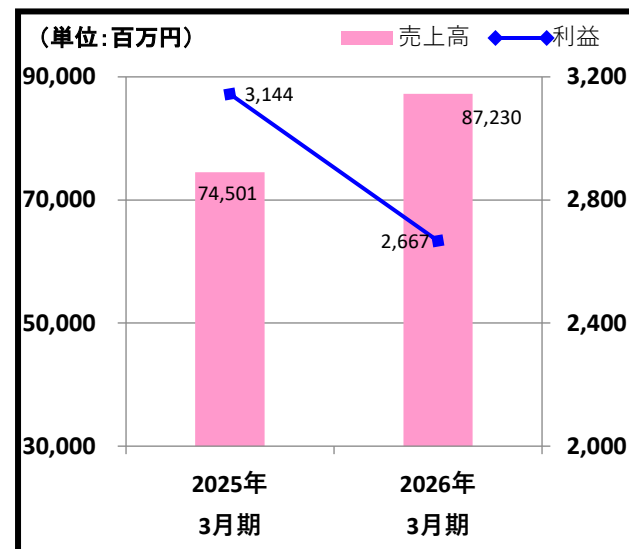
- ・高額商材の魚卵、カニの販売拡大
- ・サケ：高値で荷動き低下、市況下落し、売上・利益落込み
- ・エビ：加工品の価格上昇→需要低迷→昨年並みの売上

（海外事業）

- ・稼働開始した海外新設工場の費用先行及び
買収した子会社の原料不足による工場稼働率低迷→収益減少
- ・輸出事業はイワシの販売も増加、青物好調
- ・海外現地販売：
タイ子会社の寿司種の販売が、日系外食向けに拡大
欧州は連結子会社化した2社が売上に寄与

※参考資料P.30に「魚種別売上重量・単価推移」を記載しております。

※セグメント別のビジネスフローは「別添1」をご参照ください。



	売上高	利益
国内販売	↑	↓
海外事業	↑	↓

➤ 生鮮事業

《増収減益》

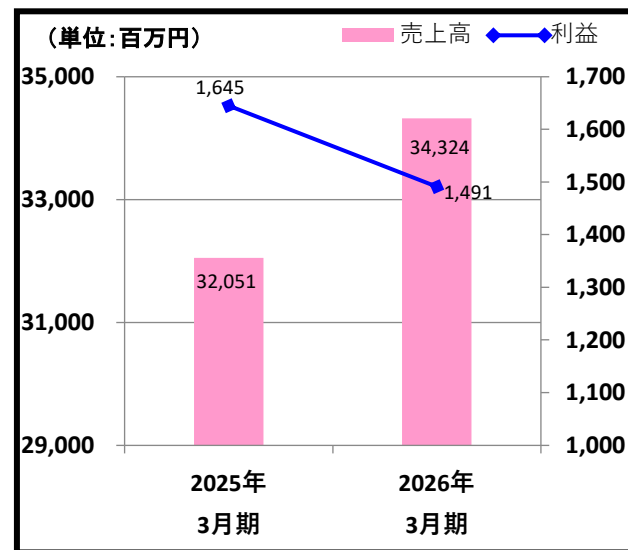
鯉鰯販売：相場上昇局面で冷凍クロマグロ、メバチ、
キハダや加工品の販売伸長で、売上・利益拡大

生食事業：回転寿司向け販売回復、
自社工場製品の拡販も進み、
売上改善、利益拡大

海外まき網事業：漁獲量の低迷で
売上減、利益は大きく落ち込み

養殖事業：国産養殖クロマグロは
品質的な優位性背景に、
取引先との取組み強化→販売拡大

※参考資料P.31～32に「クロマグロ養殖事業 売上重量・金額」および
「海外まき網事業 水揚げ重量・魚価」を記載しております。
※セグメント別のビジネスフローは「別添1」をご参照ください。



	売上高	利益
鯉鰯販売	➡	➡
生食事業 (寿司種中心)	➡	➡
海外まき網事業 (カツオ漁獲)	➡	➡
養殖事業	➡	➡

セグメントの状況

➤ 食品事業

《増収減益》

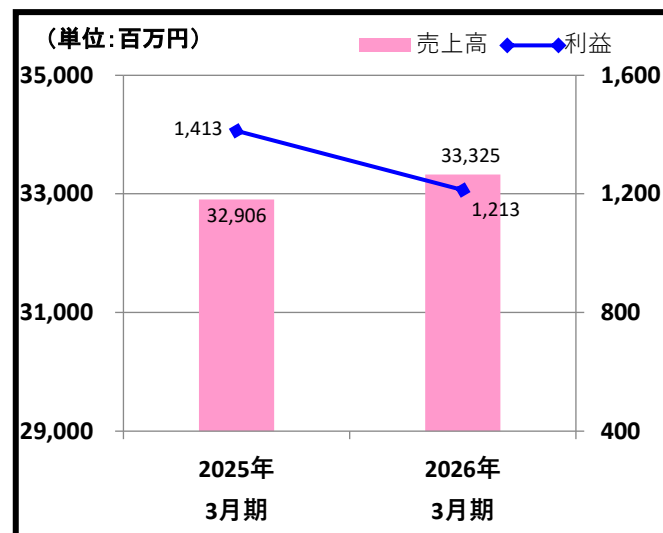
業務用冷凍食品：一部製品（切身等）は価格競争激化で販売減
 カニ風味かまぼこ、水産フライ製品などは、
 新商品投入・販売ルートの開拓+自社工場
 製品の販売伸長
 →売上・利益改善

市販用冷凍食品：水産原料価格の上昇→価格改定
 煮魚・焼魚製品、コンビニの中食向け
 水産素材の販売減

缶詰：売上は前年同期並みも、価格改定効果で
 収益若干改善

おつまみ・珍味製品：イカの原料高に伴う値上げで、
 販売数量減

※参考資料P.33「食品事業の売上高内訳」を記載しております。
 ※セグメント別のビジネスフローは「別添1」をご参照ください。



	売上高	利益
業務用冷凍食品	➡	➡
市販用冷凍食品	➡	➡
缶詰	➡	➡
おつまみ・珍味	➡	➡

➤ 物流サービス

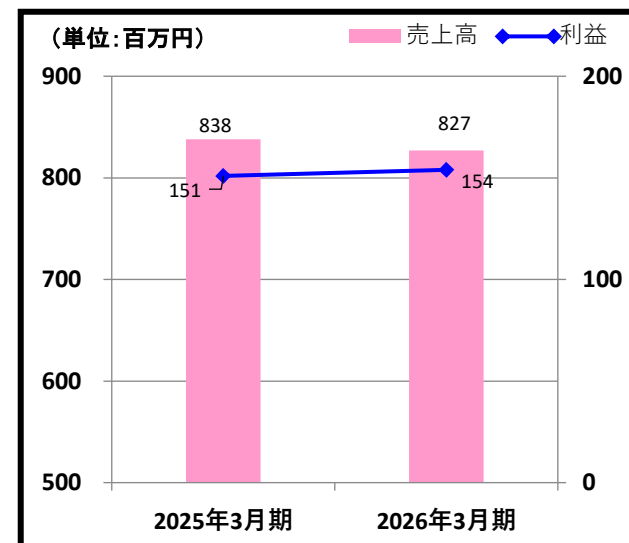
《減収増益》

(冷蔵倉庫事業)

入庫数量の増加により売上は伸長

(利用運送事業)

経費上昇を反映した価格改定などにより、利益が改善。



	売上高	利益
物流サービス	➡	➡

※セグメント別のビジネスフローは「別添1」をご参照ください。

4. 下半期の施策

セグメント別業績予想と進捗率

(単位：百万円)

	2026年3月期 2Q実績		2026年3月期 通期業績予想			
	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	売上高 進捗率	セグメント利益 進捗率
水産事業	87,230	2,667	200,000	7,000	43.6%	38.1%
生鮮事業	34,324	1,491	73,700	3,700	46.6%	40.3%
食品事業	33,325	1,213	74,000	3,300	45.0%	36.8%
物流 サービス	827	154	1,700	300	48.7%	51.3%
その他	288	△971	600	△1,800	—	—
合 計	155,996	4,555	350,000	12,500	44.6%	36.4%

【水産事業】

- 年末商戦で高額商材の拡販に注力
- 相場の先行きを見越した販売戦略、在庫管理
- 海外生産・販売拠点の整備・拡販

【生鮮事業】

- 海外まき網船の事業運営の最適化
- セグメント内連携強化による顧客対応力向上

【食品事業】

- 自社工場生産の強化による拡販および収益性向上
- 需要動向を捉えた製品ラインアップ強化

【物流サービス】

- 庫腹管理の見直しによる収益改善
- 貨物の集約による配送効率化

5.設備投資実績・計画

設備投資実績・通期計画

	概要	2024年3月期 9月末実績	2025年3月期 9月末実績	2026年3月期 9月末実績	2026年3月期 計画
極 洋	生産工場関連	2億円	5億円	1億円	5億円
	研究所関連	0億円	0億円	0億円	0億円
	養殖事業海上	1億円	1億円	0億円	1億円
	IT関連その他	2億円	1億円	2億円	6億円
	計	4億円	7億円	3億円	12億円
関 係 会 社	生産工場関連	29億円	18億円	12億円	23億円
	まき網事業関連	0億円	1億円	0億円	1億円
	養殖事業海上	0億円	0億円	0億円	1億円
	IT関連その他	4億円	4億円	1億円	4億円
	計	30億円	22億円	14億円	29億円
合計		34億円	29億円	17億円	41億円

主な投資案件

・北米のカニかま製造会社
「Ocean's Kitchen」5億円
その他、工場設備の改修等

・DX推進
システム導入等 5億円

既存工場の設備導入・改修等

※海外M&A案件は含みません

減価償却費実績

(単位：百万円)

	24年3月期2Q	25年3月期2Q	26年3月期2Q
減価償却費	1,173	1,216	1,434

6. 配当の推移

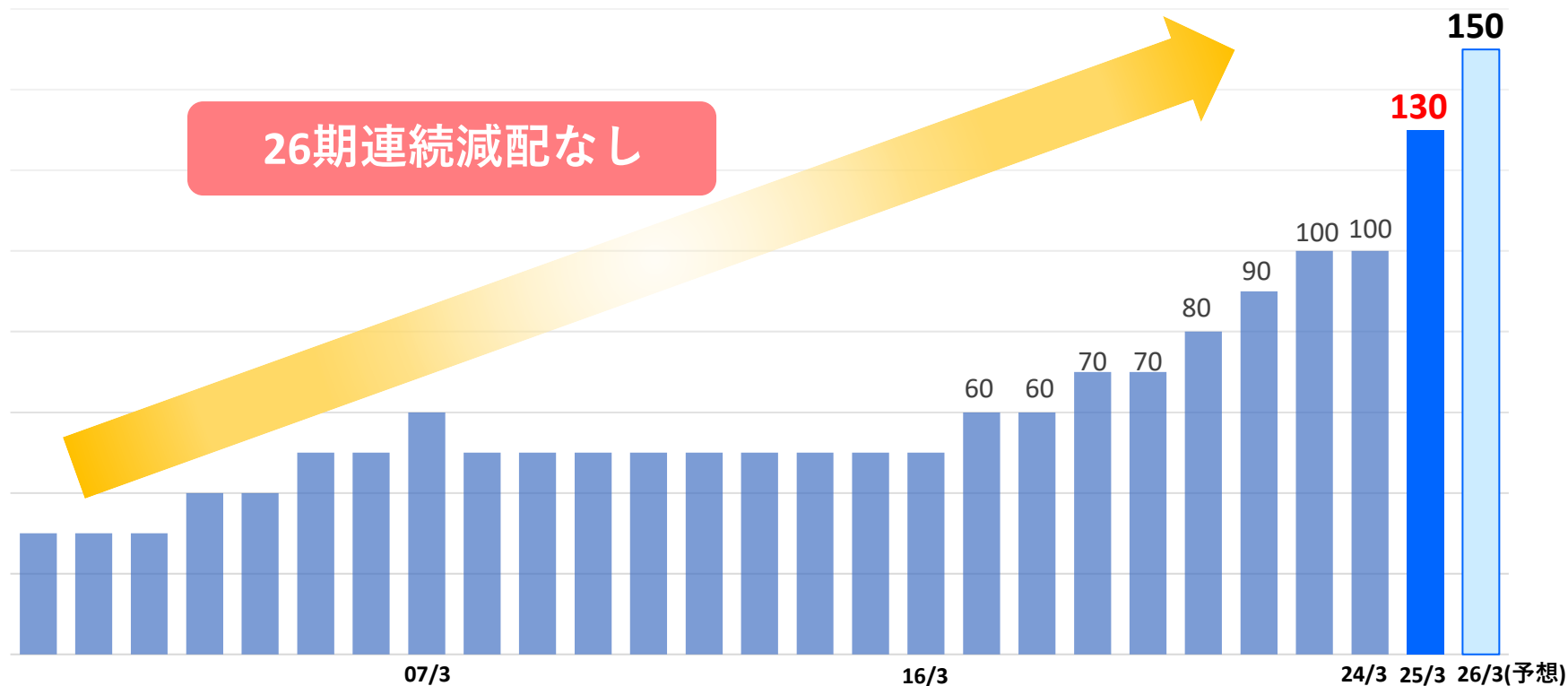
配当の推移

配当の状況

26期連続で配当維持または増配し、安定的な配当を実現。
2026年3月期は前期比+20円の150円を目指す。

※利益配当金の株主確定日は3月31日です。
中間配当はありません。

(単位：円)

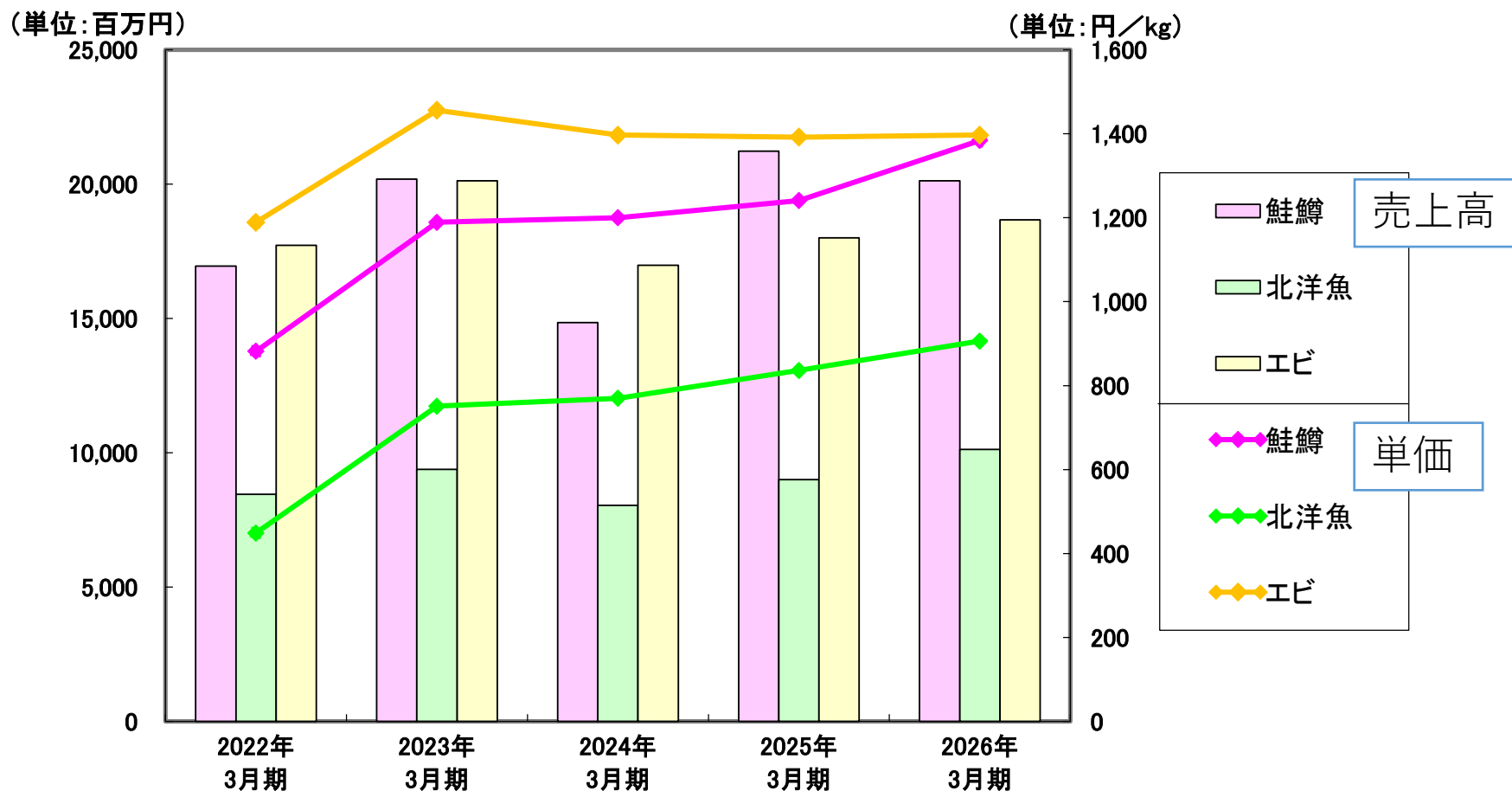


※2016年10月1日付で普通株式10株を1株とする株式併合を行っており、併合前の配当金につきましては、併合後の1株当たり配当金水準と一致させるため、実際の配当金額を10倍にして表示しております。
※2007年3月期の配当金には、創立70周年記念配当1円00銭が含まれています。

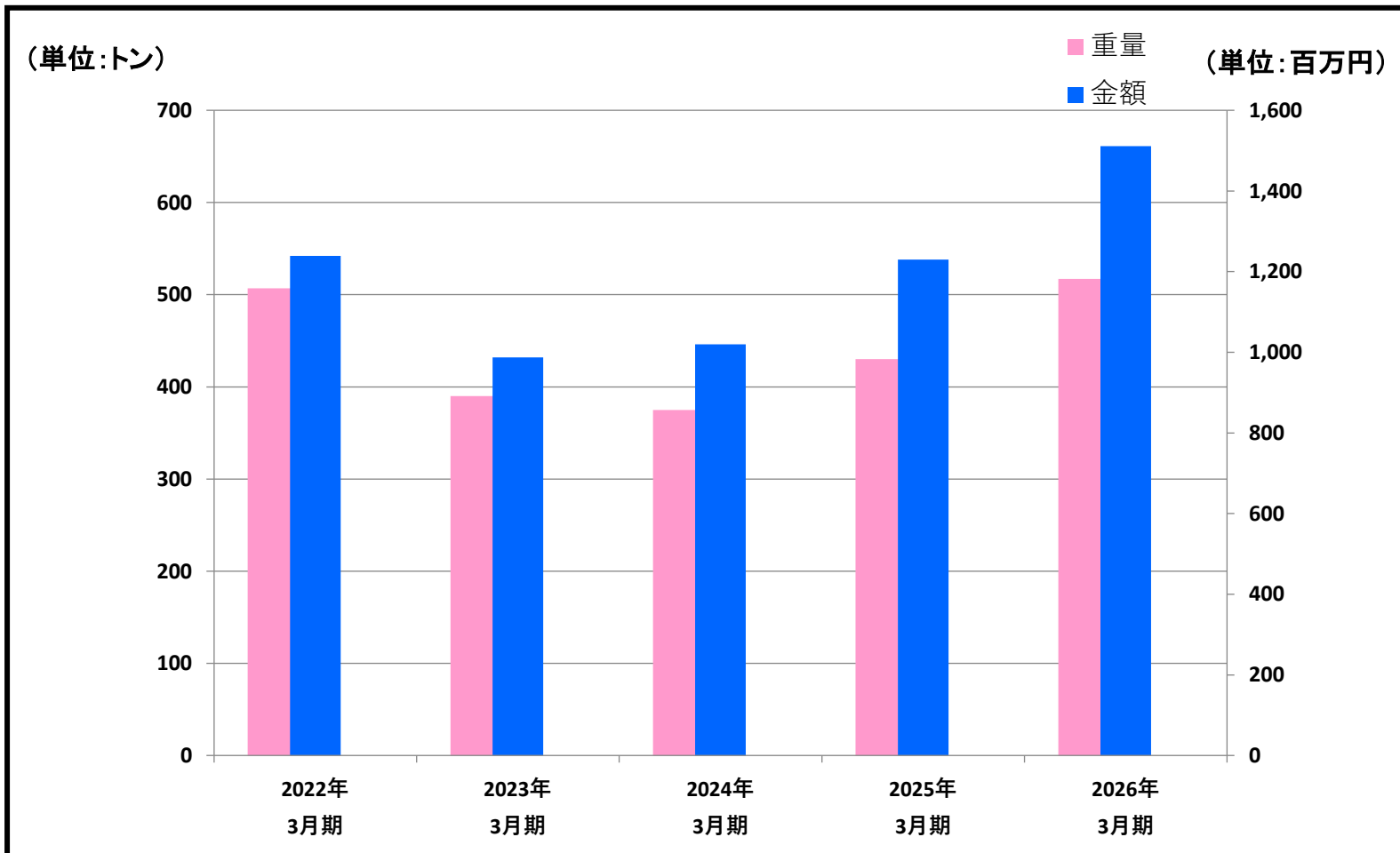
ご参考資料

ご参考資料①

水産事業セグメント（上半期）＜個別＞ 魚種別売上高・単価推移



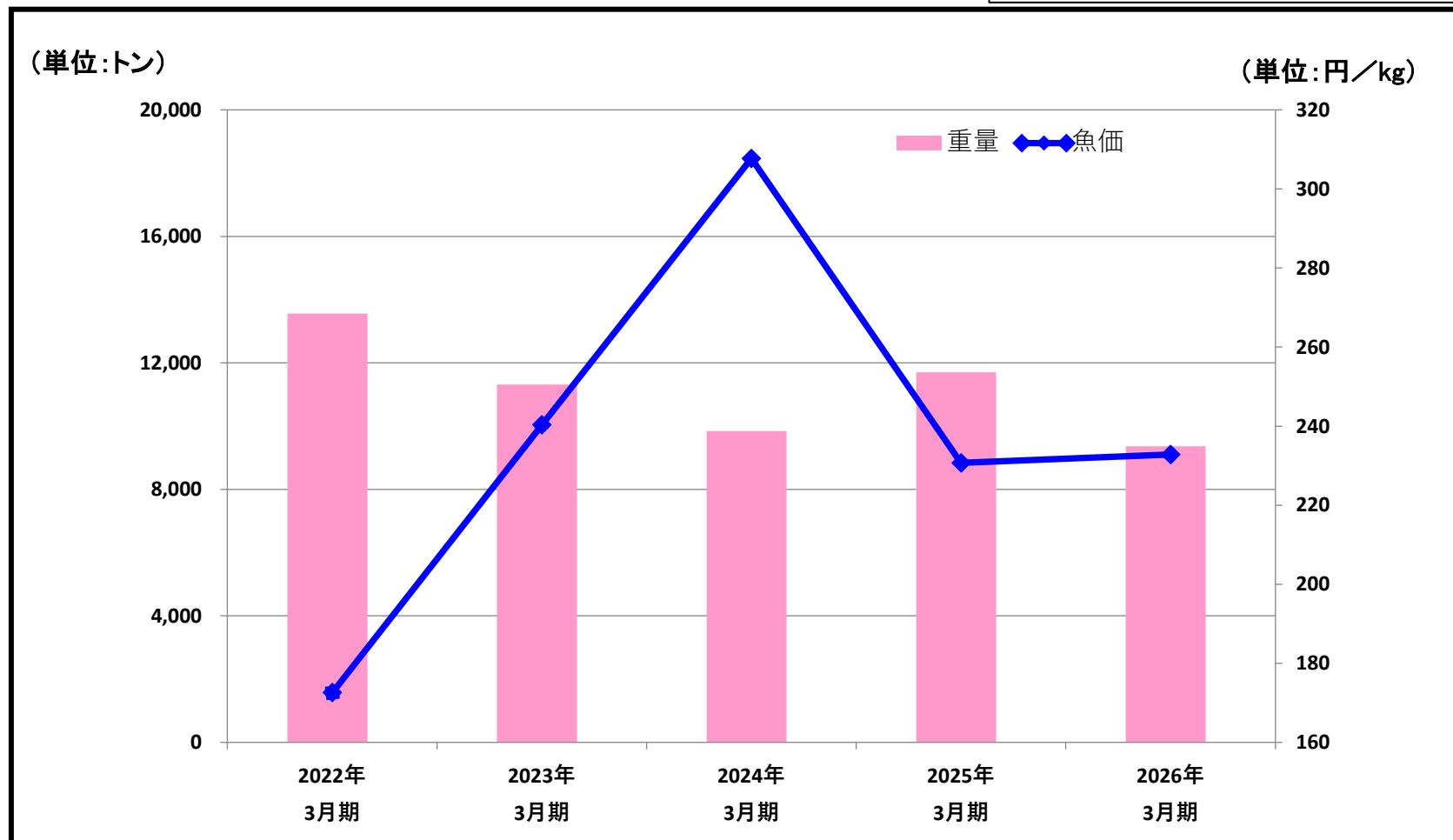
生鮮事業セグメント（上半期） 国産クロマグロ養殖事業 売上重量・金額



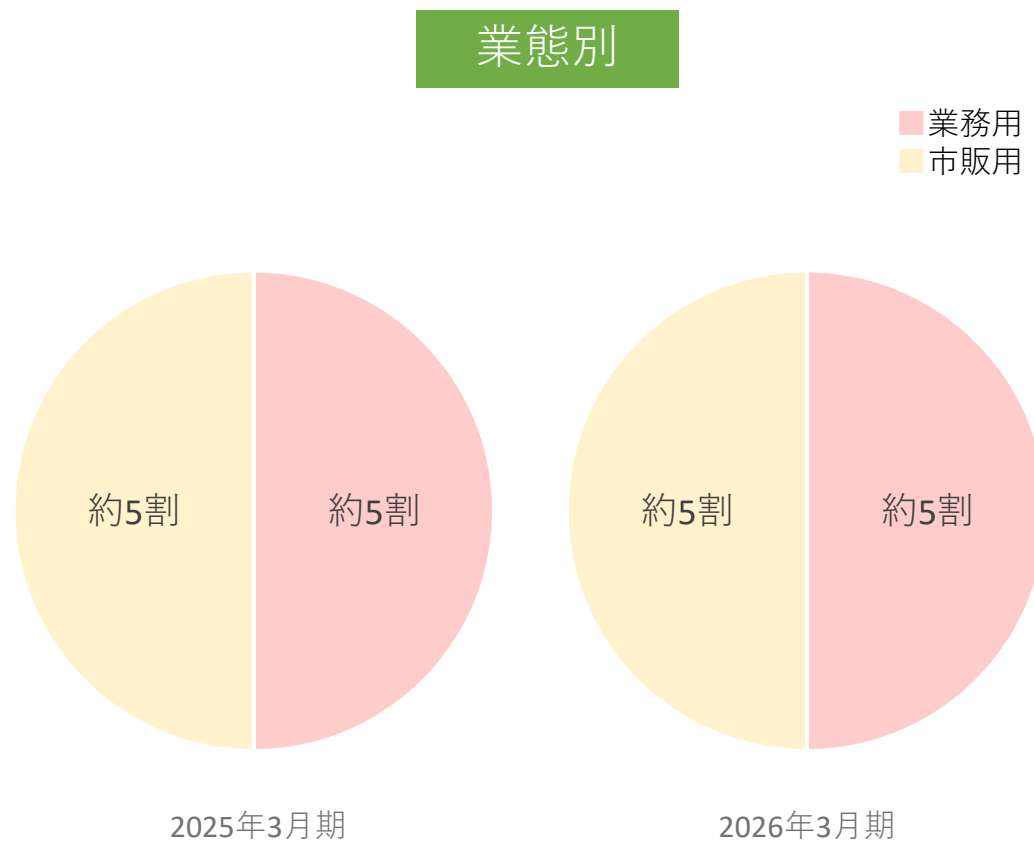
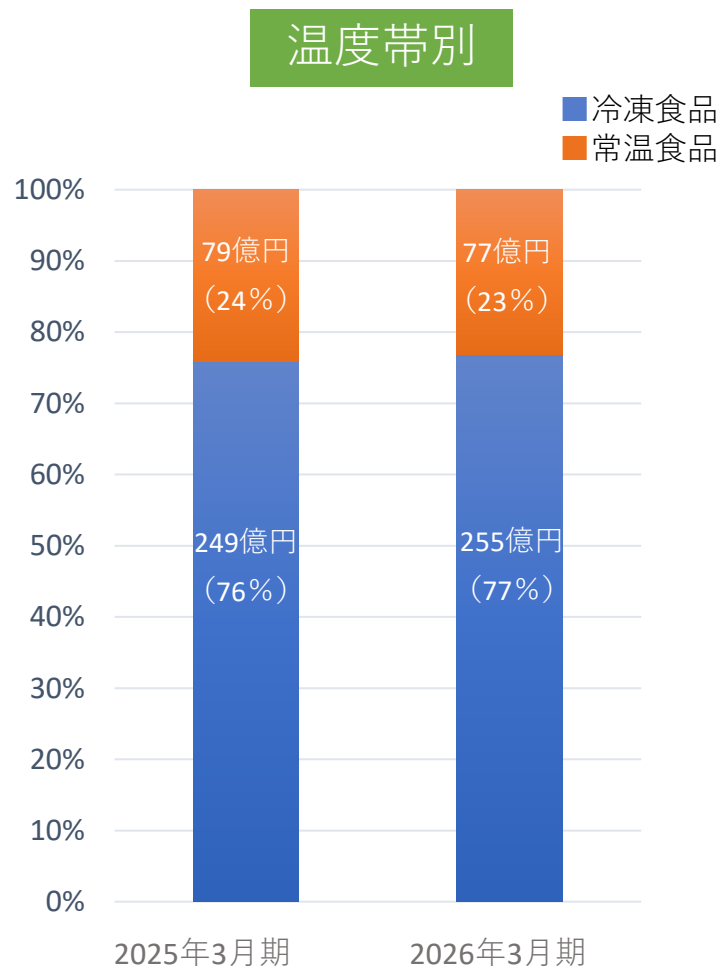
生鮮事業セグメント（上半期） 海外まき網事業 水揚げ重量・魚価

海外まき網事業について

中西部太平洋海域（パプアニューギニアなど）において自社グループ船で漁獲したカツオを、日本で水揚げ。鰹節・カツオタタキなどに加工され、流通している。



食品事業セグメント（上半期）売上高 2026年3月期（33,325百万円） 内訳 2025年3月期（32,906百万円）



ESGトピックス

➤ 日本カヌー連盟への協賛

「自然との共生」および「水資源の大切さ」を社会に訴える環境保全活動の一環として日本代表選手や日本カヌー連盟の活動を応援、サポート。
また、競技場へ来場された方々にご参加いただき競技コース付近の清掃活動「クリーンリバー活動」を実施。2025年度参加者は266名。



➤ 第2回キョクヨーグループ水産物資源調査の実施【6月】

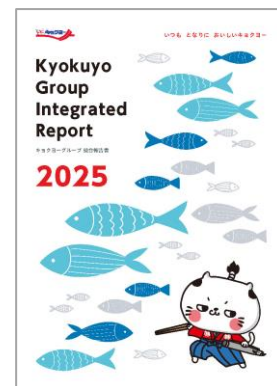
自社グループの調達状況を確認するとともに課題を把握し、適切な対応をとることを目的に実施。
調査結果はサイトで公表。

➤ 第2回サプライヤー調査の実施【6月】

サプライチェーン全体で「責任ある調達」を実践することを目的に、自社グループのサプライヤーを対象に実施。
調査結果はサイトで公表。

➤ キョクヨーグループ 統合報告書2025 発行【9月】

海外への積極的な生産・販売拠点展開などの事業戦略や、それを支える財務・人事戦略といった「変わりつつあるキョクヨーグループ」と、「魚のキョクヨー」としてのアイデンティティ、取引先との強固なネットワークと信頼関係、従業員が明るく楽しく一生懸命働ける職場環境などの「変わらないキョクヨーグループ」という2つの側面に着目し作成。



ご参考資料⑥

➤ 2Q 連結業績推移

単位：百万円

	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
売上高	120,880	133,619	126,075	140,565	155,996
売上原価	106,951	116,774	109,937	121,736	136,128
売上総利益	13,929	16,844	16,138	18,828	19,868
販売費および 一般管理費	10,706	11,469	12,141	13,363	15,313
営業利益	3,222	5,375	3,996	5,464	4,555
経常利益	3,428	5,805	4,142	5,315	4,172
特別利益	39	302	74	20	295
特別損失	48	35	663	1,217	269
親会社株主に 帰属する 中間純利益	2,438	4,208	2,451	2,709	2,814

見通しに関する注意事項

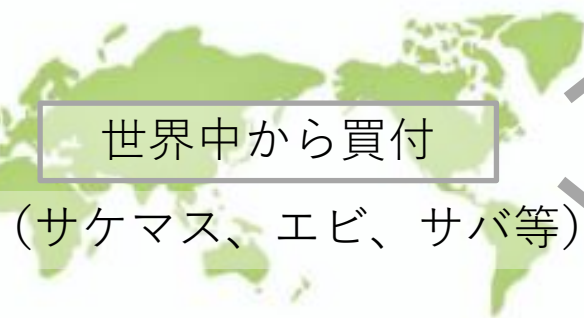
本資料は、2025年9月末までの業績及び今後の経営ビジョンに関する情報の提供を目的としております。

本資料に含まれる業績予想及び将来の予測は、現時点で入手される情報に基づくものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

したがって、実際の業績は、様々な要因によりこれらの予想と異なることがありますのでご了承ください。

本資料は株式会社極洋が作成したものであり、内容に関する一切の権利は当社に帰属します。複写及び無断転載はご遠慮ください。

国内販売



原料

販売

販売先

- ・加工業者
- ・食品メーカー
- ・卸売り市場
- ・問屋
- ・スーパー
- ・外食企業

加工

- ・水産加工品
(自社工場・協力工場)



販売

販売先

- ・スーパー
- ・外食企業
- ・問屋
- ・産業給食
- ・中食ベンダー



海外事業

輸出

買付

(ホタテ、マグロ、サバ、イワシ等)



輸出

※三国間貿易含む

販売先 (海外)

- ・加工業者
- ・日系卸問屋
- ・外食企業



海外生産・販売

生産

- (自社工場、協力工場)
- ・寿司種
- ・煮魚
- ・焼魚
- ・フィーレ



販売

販売地域

- ・東南アジア
- ・米国
- ・欧州 等

販売先

- ・日系卸問屋
- ・スーパー
- ・外食企業
- ・加工業者

鰹鮪事業

カツオ

調達

(自社船で漁獲、買付)

原料販売

販売先

- ・卸売市場
- ・加工業者
- ・食品メーカー



マグロ

調達

(買付、自社養殖)

加工

(自社工場、協力工場)

加工品販売

- ・ブロック
- ・ロイン
- ・柵
- ・寿司種
- ・タタキ

販売先

- ・回転寿司
- ・外食企業
- ・スーパー
- ・中食ベンダー



養殖事業

マダイ等



加工

販売先

- (自社工場、協力工場)
- ・寿司種
 - ・刺身商材

- ・回転寿司
- ・居酒屋／外食チェーン
- ・スーパー
- ・中食ベンダー

生食事業



冷凍食品

生産

(自社工場、協力工場)

- ・煮魚
- ・焼魚
- ・カニ風味かまぼこ
- ・水産フライ
- ・エビフリッター

販売

業務用

販売先

- ・スーパー（惣菜売場）
- ・居酒屋
- ・レストラン
- ・産業給食
- ・中食ベンダー
- ・間屋



販売

市販用

販売先

- ・スーパー
- ・コンビニ
- ・食品／食材宅配企業
- ・ドラッグストア



缶詰

委託生産

(協力工場)

販売先

- ・スーパー
- ・コンビニ
- ・ドラッグストア



ドライ
水産珍味

(さきいか、あたりめ 等)

生産

(自社工場)

販売先

- ・スーパー
- ・コンビニ
- ・ドラッグストア



トラックでの運送業務は展開していません。
キョクヨーグループの水産物・食品の保管・配送手配がメイン。

